

MR10-05 観測航海の概要

1. 船舶名 海洋地球研究船「みらい」
全長×全幅×全高 128.58m×19.0m×13.2m, 総トン数8,672 トン
コールサインJNSR
2. 航海番号 MR10-05
3. 航海名称 Arctic Climate Oceanography
4. 実施機関 独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
〒237-0061 横須賀市夏島町2-15
5. 首席研究者 伊東 素代
海洋研究開発機構 地球環境変動領域
北極海総合研究チーム
6. 課題代表研究者および研究課題名
 - 山口 篤(北海道大学)
「北極海における動・植物プランクトン群集構造の水平・鉛直分布」(leg 2)
 - 平譯 享(北海道大学)
「西部北極海の温暖化に対する植物プランクトン群集の応答」(leg 2)
 - 原田 尚美(海洋研究開発機構)
「北極海域における生物地球化学研究」(leg1-2)
 - 永尾 一平(名古屋大学)
「渦相関法による海洋生物起源ガス(硫化ジメチル)の海洋から大気への放出量の測定」
(leg 1)
 - 近藤 文義(東京大学)
「海霧の化学物質の挙動および大気-海洋間の物質フラックス」(leg 1-2)
 - 内田昌男(国立環境研究所)
「北極海最終退氷期-完新世前期における海洋環境の復元」(leg 2)
 - 内海真生(筑波大学)
「北極海の微生物群集構造の地理的分布および増殖特性と海洋炭素循環との関係」
(leg 1-2)
 - 青木 一真(富山大学)
「船舶型スカイラジオメーター観測から得られる海洋上のエアロゾルの光学的特性」(leg 1-2)
 - 青山 道夫(気象庁 気象研究所)
「海水中栄養塩の長期変動の研究」(leg 2)
 - 塚本 修(岡山大学)
「海面乱流フラックスの連続測定」(leg 1-2)
 - 高島 久洋(海洋研究開発機構)
「MAX-DOAS 法による対流圏エアロゾル・ガス成分船上観測」(leg 1-2)
 - 栗田 直幸(海洋研究開発機構)
「海洋上における水安定同位体分布図作成の為に降水・水蒸気・海水採取」(leg 1-2)
 - 杉本 伸夫(国立環境研究所)
「エアロゾル・雲の光学特性と鉛直分布の観測」(leg 1-2)

松本 剛 (琉球大学)

「海洋地球物理観測データの標準化及び海洋底ダイナミクスへの応用に関する研究」
(leg 1-2)

7. 航海期間および寄港地

- Leg 1: 2010年8月24日～2010年9月1日
(関根浜～八戸～ダッチハーバー)
Leg 2: 2010年9月2日～2010年10月16日
(ダッチハーバー～ダッチハーバー)

8. 調査海域名 北極海、ベーリング海、北太平洋

9. 調査概要

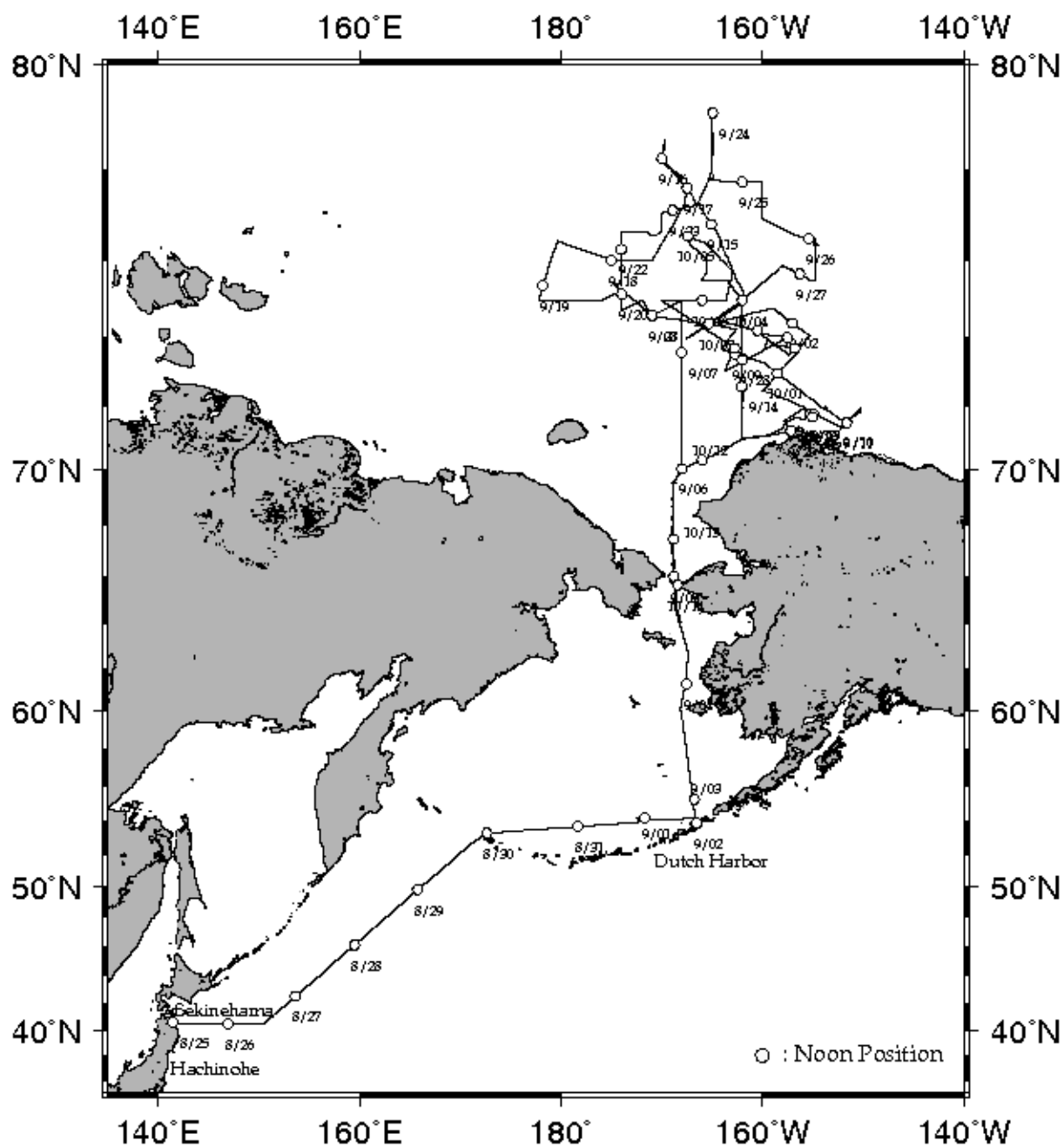
CTD/LADCP:	178点 (177地点)
CTD /採水:	132点
XCTD:	168点
ラジオゾンデ:	215点
係留系設置:	6点
表層漂流ブイ:	3点
乱流計観測 (TurboMAP):	30点
光学観測:	31点
プランクトンネット:	63点
ピストンコア:	5点 (4地点)
マルチプルコア:	11点
ADCP:	連続観測
表層海水:	連続観測
海上気象:	連続観測
ドップラーレーダー:	連続観測
エアロゾル:	連続観測
スカイラジオメーター:	連続観測
MAX-DOAS:	連続観測
2波長偏光ライダー:	連続観測
乱流フラックス:	連続観測
DMS:	連続観測 (Leg1)
海底地形(シービーム):	連続観測
地球物理計測(三成分磁力計、重力計):	連続観測

10. データの取り扱い

本航海のすべてのデータはJAMSTECの情報管理部署で管理される予定である。

11. 航路図

MR10-05 Cruise Track



MR10-05 Cruise Track

